

第2学年 組 芸術科(書道) 学習指導案 平成25年 月 日( )第 校時 場所 書道室 指導者 田島 香奈子				
単元名	漢字の書(臨書作品制作と鑑賞)			
単元目標	<p>○書くことの喜びを感じながら、意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現ができる。(書表現の構想と工夫)</p> <p>○字形の構成や全体の構成の要素を理解し、基本的な技法を身に付ける。 (創造的な書表現の技能)</p> <p>○見ることを楽しみ、書の上さや美しさを批評する。 (鑑賞の能力)</p>			
単元の 評価規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
	表現技法の基礎・基本を身に付け、意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	漢字の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。	字形の構成や全体の構成の要素を理解し、技法を身に付けている。	仲間の作品の上さや美しさについて、用筆法・結構法・章法の3観点から批評している。
題材(教材)	書道Iで学習した漢字の古典(個に応じて未学習の古典を扱う場合もある) ワークシート①, ②			
単元(教材) について	<p>(1)生徒観: 基本的な用具・用材に関する知識、楷書および行書の学習は済んでいる。しかし、個人差が大きく、書に対して興味・関心を持って取り組んでいる生徒は少ない。自ら臨書課題を設定することで、意欲的に臨書活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2)教材観: 基本的に、教科書に載っている楷書・行書の古典(篆書・隸書・草書)を選択したい場合は、選ばせる。既習の古典の中から好きなものを臨書することによって、意欲喚起を図り、倣書や創作活動に結びつける。</p> <p>(3)指導観: 一人一人が書写能力を高められるよう個別指導を重視し、個人の能力に応じて範書を示したり、添削をしたりする。まずは、基本的な用筆法を身に付けさせ、結構法・章法も指導する。また、ワークシートを使用することで、自己評価や鑑賞の観点を学ばせる。</p>			
指導計画 (学習計画)	主な学習活動		主な評価	
	1	臨書する古典および部分を選定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな古典を鑑賞し、その魅力や特徴を理解しながら選んでいる。 (書への関心・意欲・態度) (鑑賞の能力)</li> </ul>	
	2～6	古典の持つ特徴を理解しながら臨書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釈文を理解しながら臨書箇所を設定している。(書への関心・意欲・態度)</li> <li>・古典の表現技法に関心を持ち、その基礎・基本を身に付けている。 (創造的な書表現の技能)</li> </ul>	
	7	ワークシート①を記入しながら、自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落款の入れ方を工夫し、全体の構成を考えている。(書表現の構想と工夫)</li> <li>・ワークシートを空欄なく記入し、自分の臨書に対し、客観的に評価している。 (鑑賞の能力)</li> </ul>	
	8	自分の作品の発表をし、仲間の作品を鑑賞する。(合評会/ワークシート②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の作品に対し、その上さや美しさを感じ取っている。(鑑賞の能力)</li> </ul>	

本 時 案 (第8時)

本時の目標	<p>○作品に対して自分の感想を述べ、他者の発表を聞きながら評価しようとする。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○クラス全員の作品から普遍性のある表現を学び、線質・字形・全体の構成の観点から評価することができる。 (書表現の構想と工夫)</p> <p>○他の生徒の臨書作品から作品そのものや古典の美しさ・よさを感じ取っている。 (鑑賞の能力)</p>
-------	--

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時までの学習について振り返り、本時の学習活動について知る。	○ワークシート①をもとに、自分の臨書作品についての解説・自己評価を発表するように指示する。	
臨書作品についての自己評価を発表し、他者の発表を聞きながら、評価及び鑑賞(合評会)をする。		
2 ひとりひとりワークシート①をもとに、自分の臨書作品についての解説・自己評価を発表する。  (自分の発表以外のときは他者の発表を聞きながら、その作品の評価・鑑賞をする。)	<p>○発表に対しては肯定的にうなずき、努力の成果と反省点を理解してあげる。</p> <p>○各人が発表を終えるごとに当該作品に対する講評(評価点〔仕上がった作品と制作過程における努力〕及び改善点)をする。</p>	<p>○自分の作品に対して、線質・字形・全体の構成の具体的観点から評価している。 (書表現の構想と工夫) &lt;ワークシート①&gt;</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ー努力を要する生徒への手立てー</p> <p>一緒に作品を鑑賞しながら、線質・字形・全体の構成の観点から問いかけをし、具体的に答えられるように促す。</p> </div> <p>○他者の発表を聞き、作品を鑑賞している。 (書への関心・意欲・態度)</p>
3 自分の作品以外でよいものを1点選ばせ、その理由をワークシート②に記入させる。	○作業中は机間指導。作品を選べない生徒への助言をする。	○用筆・線質・字形・全体の構成などの具体的な根拠に基づいて作品を鑑賞・評価している。 (書表現の構想と工夫) (鑑賞の能力) <ワークシート②>
4 表現と鑑賞の関連について学ぶ。	○今後の臨書や創作活動に生かすために、作品を書く際の留意点(全体の構成・落款の入れ方・結構の取り方)を、例を示しながらアドバイスする。作品を書くたびに客観的に作品を鑑賞し、表現につなげていくように促す。	

# ワークシート① 作品制作 (半紙臨書作品)

二年組 番 氏名 )

1. 臨書した古典名

2. その古典を選択した理由

(教科書を見て、古典の特徴を理解した上で記入)

.....

.....

3. 自己評価

**観点** (評価の際に観るポイント)

①字形 (一一一の字の形・・・古典と比較したときどうか?)

②線質 (筆遣いや線の潤濁) 「二にじみとかすね」はどうか?)

③全体の構成 (半紙に対して、それぞれの文字の大きさを配置はどうか? 名前の大きさを位

置は適当か?)

○良くてきたところ・満足点

.....

.....

○難しかったところ・反省点

.....

.....

